

熊本地震を教訓に

本日 19 日、区役所ロビーでは熊本地震で大きな被害を受けた熊本市の写真パネル展が開催され、多くの来庁者が足を止めて見入っていました。このパネル展は、区から建築物応急危険度判定のために派遣された職員が現地の様子を撮影したものです。また、木造密集地域が多く残る杉並区の大きな課題でもある、家屋の耐震化・不燃化の相談も同時に行いました。

熊本地方で大きな地震が発生したのは、4 月 14 日でした。その後も大きな地震や余震が続き、多くの生命・財産が奪われました。杉並区も熊本市からの支援要請を受け、4 月 19 日にはアルファ米 5,000 食や飲料水 2L 入り 1,890 本などを被災地に届けました。

また、4 月 23 日から 3 日間、震災地の熊本県の要請を受けた東京都の派遣要員として、杉並区の建築の専門知識を持つ職員 3 名が熊本市の建築物応急危険度判定を行って来ました。業務は、地震により被災した建築物を調査し、その後に発生する余震などによる倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下等の危険性を判定し、人命にかかる二次的災害を防止するとともに、判定結果を建築物の見やすい場所に表示し、付近を通行する歩行者などに対してもその建築物の危険性について情報提供を行うものです。

この 3 名の職員は、いずれも熊本県出身で、生まれ故郷の手助けをしたいと真っ先に手をあげました。3 日間の短い滞在期間でしたが、この間に見た地震被害、住民から聞いた地震の恐ろしさ、そして被災地を覆う空気の匂いなど、現地でしかわからないことを感じました。こうした経験をいつか必ず起きると言われている首都直下地震への備えにつなげるため、本日の写真パネル展が開催されました。



パネル展では、応急危険度判定を行った地域の建築物や工作物の被害状況写真のほか、建物の耐震化・不燃化の助成制度や狭あい道路の拡幅整備についての展示もありました。

また、区内の自治会長の方がパネル展をご覧になり、地域の方々に耐震化等の重要性を伝えたいと言ってくれたなど、減災への意識を啓発することができたパネル展となりました。

【問い合わせ先】都市整備部耐震不燃化担当 電話 3 3 1 2 - 2 1 1 1 内線 3 3 3 1